

今週の見頃写真

7月29日編集

□風景

○有峰湖展望園地より有峰湖を望む

有峰でもノリウツギ（アジサイ科）が一斉に咲き始めました。ノリウツギ越しに有峰湖展望園地より有峰湖を撮影しました。



有峰湖展望園地より有峰湖を望む（7/24撮影）

○有峰湖展望園地より霧の有峰湖を望む

7月25日早朝猪根平一帯では霧が発生しました。

“霧の摩周湖”ではありませんが、“霧の有峰湖”に変貌しました。“霧の有峰湖”とても幻想的です。梅雨時、有峰ではしばしば濃霧が発生します。布施明の“霧の摩周湖”「霧にだかれて 静かに眠る ～ ♪」を思い出すのは小職だけでしょうか？



有峰湖展望園地より霧の有峰湖を望む（7/25撮影）

○有峰の象徴・ブナの大木を見上げて

有峰の森を代表する樹種は、ブナ（ブナ科）とミズナラ（ブナ科）です。ツキノワグマやニホンザル、鳥類や昆虫類など幅広い動物種の食料にもなっています。有峰のブナは大木も多く、壮大で、天然の水がめです。



猪根平にて7/23濃霧の中撮影

□動物編

○ツキノワグマ出没中！

7/24 ツキノワグマの小熊が、また猪根平多目的広場に出没しました。同じ個体が有峰森林文化村エリア内を往来しているようです。この日は多目的広場一帯で草刈りが行われていましたが、ツキノワグマ、自分の縄張りを主張するかのように、草刈り機の音に動じることなく、モクモクと一心不乱にアリを物色・捕食し、その経過時間は1時間を超えていました。草刈りをしている人に聞き取りしたところ、ツキノワグマとは自然体で接しているとのことでした。慣れは怖いと実感、一定の距離を置いた対応が必要です。まずは人命の安全が優先されると思いますが、有峰は、ツキノワグマの恒常的生息域でもあります。共存という選択肢に配慮したい考えています。この辺り一帯に電気柵が設置されていますが、上手に回避しながらアリを捕食していました。昨年より来訪者への普及活動（普及パンフレット、注意喚起看板、出没状況マップの掲示）や不特定多数が訪れる折立地区の巡回を継続しています。



草刈りをしている手前でアリを物色中のツキノワグマ
(猪根平多目的広場にて7/24撮影)



電気柵の手前でアリを物色中のツキノワグマ
(猪根平多目的広場にて7/24撮影)



聞き耳を立てこちらを正視するツキノワグマ
(猪根平多目的広場にて7/24撮影)



石を掘り起しアリを捕食中のツキノワグマ
(猪根平多目的広場にて7/24撮影)

○ノリウツギに訪花する昆虫類

○ヤマカガシ (ナミヘビ科)

有峰にはアオダイショウ (ナミヘビ科)、シマヘビ (ナミヘビ科)、ニホンマムシ (クサリヘビ科)、ヤマカガシ (ナミヘビ科) などが棲息していることが知られています。西岸線の路上で、ヤマカガシを観察しました。偶然通りかかったニホンザルが突然飛び上がり、ヘビを回避し、「キッキッー！」と氣勢を上げました。ニホンザルはヘビが苦手なようです。見惚れて、シャッターチャンスを見逃しました。その後のサルの一団を撮影しました。リラックスし、毛繕いしていました。冷夕谷キャンプ場にパトロールに行く途上でしたが、面白い場面を観察できました。



安心して毛繕い中のニホンザル
(西岸線の路上にて7/24撮影)

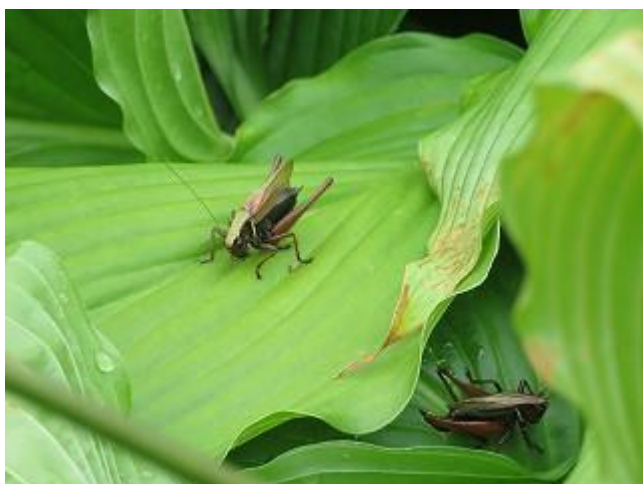


道路補足中のヤマカガシ(西岸線の路上にて 7/24 撮影)

□昆虫編

○ヒメギス (キリギリス科)

7月下旬の有峰、特に猪根平では、ヒメギスがこの季節色々な植物の葉上で観察できます。植物の葉や他の昆虫類を捕食する雑食性です。キリギリスと近縁種のため、ネギ(タマネギ含む)にも誘引されます。

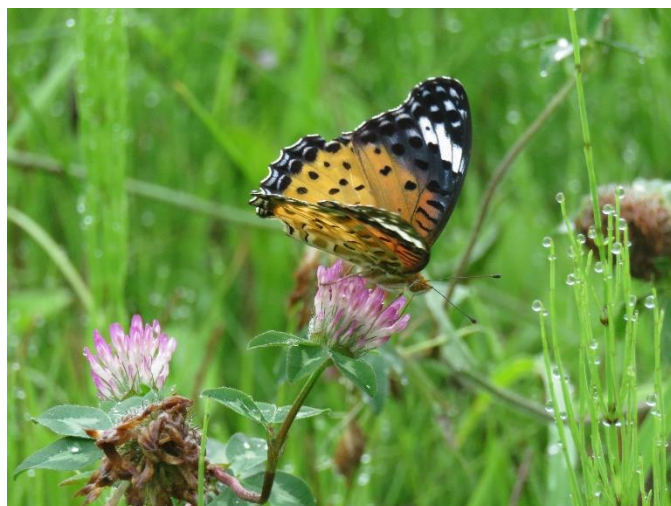


オオバギボウシの葉上で静止中のヒメギス 🐛短翅型

(猪根平多目的広場にて 7/24 撮影)

○ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)

温暖化で北上し分布を広げているヒョウモンチョウ類の一種です。幼虫の食草は野生、栽培種のスマレ科多数種です。有峰では、7月下旬から、猪根平多目的広場の草原でアカツメクサ(マメ科)やノアザミ(キク科)に訪花中の個体を観察できます。既に富山市の低地では定着していると考えられています。有峰で定着しているか継続的な調査が必要と考えています。



アカツメクサに訪花中のツマグロヒョウモン 🐛

(猪根平多目的広場にて 7/24 撮影)



アカツメクサで吸蜜中のツマグロヒョウモン 🐛

(猪根平多目的広場にて 7/24 撮影)

○ノリウツギに訪花する昆虫類

7月下旬より有峰ではノリウツギ(アジサイ科)が一斉に咲き始めました。曇天の日も含め、梅雨の晴間には、多くの昆虫類がこのノリウツギに訪花し、花粉を捕食し、吸蜜している様子を観察できます。その代表的な昆虫類は、ハナカミキリ類です。



ノリウツギに訪花中のミヤマクロハナカミキリ
(猪根平にて 7/24 撮影)



ノリウツギに訪花中のフタスジカミキリ (左下) とアオハナムグリ (中央) (猪根平にて 7/24 撮影)



ノリウツギに訪花中のアカタテハ
(猪根平にて 7/24 撮影)

○コンクリート壁の住人 “コムラサキ”

冷タ谷キャンプ場ロッジの正面入口のコンクリートの壁にコムラサキ (タテハチョウ科) の♂とアカタテハ (タテハチョウ科) ♀が集まり口吻を伸ばし吸汁していました。

有峰は寒冷地で豪雪地帯であるため、コムラサキは年1化 (7~8月) の発生と思われます。幼虫の食草は、カワヤナギなどのヤナギ類 (ヤナギ科) です。

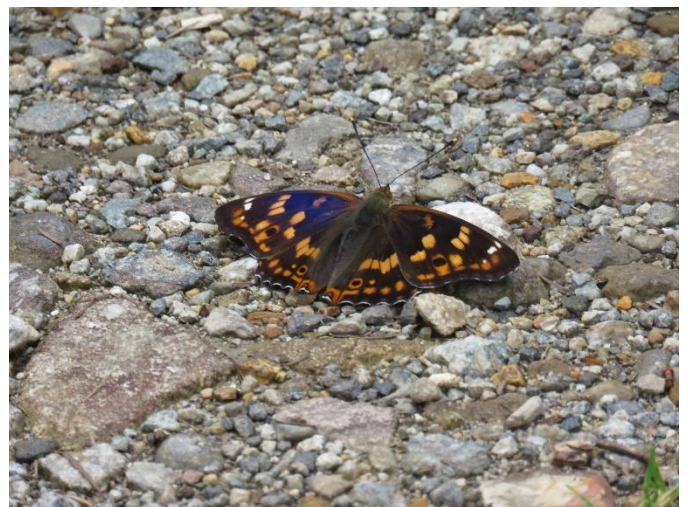
この日、この壁にミドリヒヨウモン (タテハチョウ科)、テングチョウ (タテハチョウ科)、ルリタテハ (タテハチョウ科) ♀、キバネセセリ (セセリチョウ科) ♀も集まっていました。ミネラル (塩分) を補給しているようです。



コンクリートの壁で吸汁中のアカタテハとコムラサキ
左下ではキバネセセリも吸汁中
(冷タ谷キャンプ場にて 7/24 撮影)



コンクリートの壁で吸汁中のコムラサキ♂
名前の由来の通り、構造色により青く光り美しいです
(冷タ谷キャンプ場にて 7/24 撮影)



地面で吸汁中のコムラサキ♂
(冷タ谷キャンプ場にて 7/24 撮影)